

二次元性愛の抹消と抵抗可能性に関する社会学的研究

松浦, 優

<https://hdl.handle.net/2324/7182279>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (人間環境学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏名	松浦 優			
論文名	二次元性愛の抹消と抵抗可能性に関する社会学的研究			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	高野和良
	副査	九州大学	准教授	山下亜紀子
	副査	九州大学	講師	井上智史
	副査	九州大学	講師	藤田智子

論文審査の結果の要旨

本論文では、「二次元性愛」というマンガやアニメなどのいわゆる「二次元」の性的創作物を愛好するセクシュアリティを対象として、こうしたセクシュアリティがいかにして独自のセクシュアリティとして成立可能であるのか、すなわち、生身の人間に対する性的欲望とは異なるものとしていかに存在しているのかが検討される。次いで、これらのセクシュアリティが周縁化され、不可視化される事態を「抹消」として捉え検討が進められる。さらに、抹消に対してどのように抵抗しうるのか、といった点が検討され、社会学およびクィア・スタディーズの観点に基づいた考察が展開される。

こうしたセクシュアリティの周縁化は、性別二元論的な異性愛規範に認められる「対人性愛中心主義」が規範化されている状況において、明確な差別状態でもなく、不可視化されることで、多数派からは、その存在すら意識されず差異化されていない状態として出現している。本論文では、こうした状況を抹消として把握し、この独自の概念の精緻化を図るために、理論研究と質的研究を組み合わせる方法論を採用し、従来のセクシュアリティ研究の拡張を実現している。

理論研究では、ジェンダー、セクシュアリティに関する諸理論の検討をはじめ、抹消に関する現象学的社会学の知見、なかでも主にシュッツに依拠しながら考察している。さらに、「二次元の性的創作物を愛好しつつ、生身の人間には性的に惹かれない」人びとといった不可視化された当事者に対する聞き取り調査などから得られた知見も加味しつつ実証的に研究を進めている点も、本論文の特徴として評価できる。

論文の構成は次の通りである。第1部の各章では、まず、対人性愛中心主義をめぐってジェンダーとセクシュアリティの関係から批判的に検討される。ジェンダーはセクシュアリティによって規定されるというジェンダー本質主義の抱える課題が指摘され、両者は「互いに対する動的関係」で

あることが指摘される。また、対人性愛中心主義はジュディス・バトラーの「〈字義どおり化〉という幻想」を構成要素でもあり、性別二元論とあわせて異性愛規範の構成要素ともなっていることが示される。

次いで、対人性愛とは異なる「二次元」に対するセクシュアリティの存在可能性を、現実社会の規範などの再生産を空転させる「アニメーション的な誤配による攪乱」とし、こうしたセクシュアリティが社会で不可視化される過程を含めて理論化している。

第2部の各章では、現象学的社会学に依拠し、抹消は、あからさまに名指されて差異化されるものではない周縁化であることが提示される。抹消は、「非類型化をともなう周縁化」であり、これを維持するレリヴァンスの問題が検討される。

次いで、本論文の方法論上の特徴でもある実証分析が行われる。当事者に対する聞き取り調査や、架空のキャラクターへの性的惹かれを意味するフィクトセクシュアルに関するウェブ投稿（旧Twitter）上の発言をもとに、対人性愛中心主義に対する批判的な言説に関する分析が行われる。さらに、二次元の未成年キャラクターを性的に描いた創作物に対する法規制をめぐる議論にも、対人性愛中心主義的な価値判断が潜在していることが指摘される。これによって、一見軽微な周縁化と見なされがちな抹消が、制度的、社会的周縁化としても存在することが明らかにされる。

第3部では、抹消への抵抗に向けての展望として、対人性愛中心主義批判を共有するアセクシュアルやオタクといった人びとの関係を捉えるうえで、二次元の性的創作物が流通していることが同様のセクシュアリティの人びとの存在を示唆していることなどを手がかりとして、「連帯」のひとつの形として位置づけていくことの可能性などが示される。

このように、本論文は、抹消というジェンダーとセクシュアリティの動的な関係を捉えるためのひとつの概念を提示することによって、これまで一般的に差別と呼ばれてきた事象とは異なる形態としての周縁化状況を明らかにしており、社会学的な差別研究への貢献についても評価できる。

よって、本論文は博士（人間環境学）の学位に値するものと認める。